

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「事業所理念」としてホーム内の玄関と廊下に掲げて管理者と職員が共有している。また、朝の誓いを介護への心構えとして、毎日読み合わせをすることにより共通の認識となっている。	「事業所の理念」を廊下と玄関に掲げ、勤務交代の引き継ぎ時には、「職員の心得」として唱和し、その理念を共有すると共に日々の実践につなげている。職員間の信頼関係が深まっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会に加入し、公民館での文化祭やふれあい会などに参加して交流を深め、地区の獅子舞や音楽ボランティア等の受入を行っている。	地域の文化祭に参加し、催し物の見学をしたり、体育祭には職員も出場し、秋祭りには施設の園庭で獅子舞を受け入れ、地域と一体となった交流が持っている。	利用者の作成した編み物や張り絵等大作もあり、文化祭に出品するなど地域とのつながりが一層深まる事を期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事に参加したり、地区消防団の方や役員の方などに見学していただき、理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	区長、民生委員、市の担当者、近隣の地域包括支援センター長、家族会会長を迎えて年6回行っている。ホームの現状を踏まえての意見交換や指導はホームの体制にも大きく貢献している。	定期的に進捗会議を開催し、出席率も大変良い。近況報告や施設の課題について意見交換し、理解を深めたり指導を受けるなどサービス向上に生かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議にも参加いただくと共に有意義な指導やアドバイスにより、サービスの向上に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染の対応について運営推進会議の中で担当者と協議したり他の事業所の動向を聞くなどして緊密に連携を図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを目指し「身体拘束廃止に関する指針」をまとめて、年2回全職員の理解が深まるようにホーム内研修を行っている。現在お一人の方が車イスベルトを日中使用しているが尊厳を大切にしている。	身体拘束をしない研修を行うと共に身体拘束廃止の指針を作成し、なお廃止委員会を開催。ケアの向上に努めている。重度の入居者については経過を記録し、ご家族や行政の理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と共に年2回ホーム内研修を行い身体的虐待、心理的虐待、ともに全職員が意識し注意している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個人の権利を擁護することは重要であり、研修資料を職員が共有し、理解を深めている。成年後見制度を利用されている利用者が1F・2Fにお一人ずつおり、職員も理解を深め共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ずご本人・ご家族に見学していただき、契約内容の説明後は十分に理解いただけたか、不安をとるための話し合いも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今年はコロナ感染予防の関係で面会回数は減っているが、来訪時には必ず職員との面談を行っている。また利用者の様子等を電話で連絡すると共にホームだよりを送るよう進めている。	今年は新型コロナウイルス感染予防のため面会は少ないが、「桜のたより」を発行し、ホーム内の様子をイラストや写真を載せてお伝えしている。	意見箱は設置されているが、積極的な活用を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案の疎通性はよく、全員参加のミーティングはできないが、機会があるごとに問題は取り上げ納得いくまで話し合い、前に進んでいる。	職員全員そろっての会議は持てないため、連絡ノートを通じて連携を図っている。施設長は意見に対して前向きに取り組み、職員の信頼も厚い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員体制に少し変動があり、教える側・教わる側を経験してよい環境ができつつあるのでやりがいのある職場になってきつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内研修に力を入れる様になり、毎月目標を掲げて、看護師・認知症専門士等を中心に昼休みに3～4人ずつ行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	入居希望者には出来るだけ担当ケアマネジャーさんにも見学に来ていただき、同業者目線でホームの良い点、改善点等を伺い、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安を抱えての初期段階には、全職員が傾聴を心掛け、気持ちに寄り添い信頼関係をつくるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に際してはご家族の困りごと、不安なことに耳を傾け、今までの利用者との関係を踏まえてより良い方向に行くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者のご家族の求めていることを全員で把握して、自立度を落とすことなく本人の希望を受け入れて支援の方向を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の心に重すぎない介護を心掛け、共に生活し、笑い合える関係として「ゆっくり・のんびり・にっこり」と過ごしていきたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の気持ちにも寄り添いながら、利用者を理解し、共に支え合っの支援を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染予防前は馴染みの方々の面会も自由だったので、友人、ご親戚の面会が多くあり共に過ごす時間を大切にしていた。	入所前の聞き取りを介護職員と看護職員それぞれに十分行い、その人の生きてきた歴史を大切にしている。美容院等馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ほとんどの利用者が日中はホールで過ごしていますので、利用者同士の会話や支え合いができる様に職員も関わり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された方はそれぞれ適切な支援や医療機関に恵まれているので、その後の支援は特にしていないが、退所後のご家族より清拭提供などで助けられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の入居前の生活歴や価値観・趣味などを把握し、それぞれが無理のない楽しみを持って生活出来る様に心がけている。	利用者がより良く生きられるよう、日々のさりげない会話を大切にし、入居時には把握できなかった趣味や過去の経験からできる事を見だし、生きがいに繋がるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の本人からの聞き取りと、ご家族からのお話や、日々の会話の中から生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	共に過ごす中で、本人の希望にできる限り添える様に一日の過ごし方を考える様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向も踏まえて、日々の記録やモニタリングから個別の1~3か月目標を作り、目に見える状態にしてケアプランに反映する流れが整いつつある。	入所者の課題を明確にし、その目標に向けてどんな関わりが必要で大切かを丁寧に分析し、現状に即した介護計画を作成している。毎日の記録の中でモニタリングを行ない達成できる様取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録やバイタルの他に排便管理や食事量・水分量等の個別管理をして、体調に合わせた介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	遠くに出かけられない利用者のニーズに対応するため、外庭での散歩を多くしたり、入浴を楽しめる様に、機械浴使用により寝たきりの方でも入れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方の音楽ボランティアなどの参加をお願いし、楽しみの時間が少しでも多く取れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院が隣接しており、かかりつけ医による健康管理もできている。歯科医院は往診対応もしており、専門医院はご家族の協力を得ている。	施設の協力病院を指定される方が多く、隣接する協力病院へ職員が付き添い定期的に受診している。健康管理は十分に行き届いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の服薬の分包や管理は看護師が行い、利用者の体調に対しては、介護士・看護師・医師との連携がスムーズにとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報提供書などで詳しい情報を交換して良好に行われている。また、協力病院では、3か月ごとに全員の定期受診も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現在ご家族からの希望により重度化した利用者の介護も行っているため、ご家族・医師を交えての話し合いを何度も行い、気持ちに添うようにしている。	終末期の対応について、事前にご家族と十分話し合いを持ち、方針を共有している。重度化した場合は、その都度、話し合いを繰り返し家族の一員として寄り添ったケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルは全職員で理解に努めているが、ほとんど隣接病院の担当医師に頼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	スプリンクラーの設置も完了しており全職員が年2回の火災訓練を行い認識を高めている。市の消防署による指導と共に、地域の消防団にも協力をお願いしている。	水害時の避難計画を作成し、訓練時には、場面々を設定し実際に即して行い、方法や必要時間を体験している。また地域の福祉避難所として活用していただく事も提案している。	地震対策として、居室の家具等の固定やヘルメット着用について検討される事を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの保護は常に意識することを心掛けている。また、個人の尊厳や誇りに対しては親しみやすさとの関係で勉強が必要と思っている。	一人ひとりの個性を尊重し、「ゆっくり、のんびり、にっこり」をモットーに支援している。プライバシーの確保はできる限り保たれ、尊厳を持った会話や対応に心がけている。	三階の居室は行動把握の観点からドアを開放し飾りのれんで対応しているが、更なる工夫を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自己決定できる様な声掛けになるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事とおやつ以外の時間帯は、個々のペースで生活しており、自立度の高い方で洗濯・居室の片づけを行っている人がおり、見守りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪や爪の長さには常に気を配っているが、おしゃれとしての支援は清潔優先になってしまい楽しむところまでは行えていないと思う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養面の管理はしっかりしており、バラエティーにも富んでいるが、今は利用者と共に作ることはできず、食事介助が増えた。個別対応として粥・きざみ・ミキサー食などにし、楽しみな時間になるように努めている。	外注の食材を活用し、レシピに沿って職員が調理を行っている。利用者の状態に合わせた食事形態で提供されている。一緒に作ることは行っていないものの、手作りおやつでは楽しい時間となっている。	準備や片付け、盛り付け等、その人に合った役割を見い出せるよう更なる工夫を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量、栄養バランス、水分量とも個別に把握し、嗜好による別メニューにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	介助の必要な人を含めて全員が毎食後口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間に消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	車いす利用者も介助による立位が保てるうちは、夜間もおむつにせずトイレ使用を目標に職員が頑張っている。	できるだけトイレでの排泄を心がけ、行動変容を見逃さない様気配りを行いケアに生かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便管理は個別の表にして行い、医師との連携により対応できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	1人週2回、全員介助のもと個別入浴を楽しんでいる。重度者は2人対応で機械浴を行っている。清潔を保つ為、臨機応変な対応もしている。	利用者の機能に合わせた入浴を提供できている。季節の特別浴として、リンゴ湯や菖蒲湯を提供し、季節感を味わえる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間対応は個別のリズムに合わせたトイレ介助をして、安全に眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員がわかるように個別服薬表と効能を張り出し、服用に対する確認に努めている。症状の変化については、看護師・医師と連絡を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の得意とする編み物やぬり絵など楽しみの支援をしている。役割として洗濯物たたみ、雑巾縫い等をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日など外庭で体操や、畑の野菜採りなどで気分転換を図っている。希望の外出には家族の協力も欠かせず、支援を頂いている。	日当たりの良い園庭で体操をしたり、野菜畑では、地域の方の協力を得て季節の野菜を作り、気分転換となっている。個別の外出については、ご家族と相談しながら本人の希望に沿うよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホーム内ではお金を使うことがなく、金銭の理解ができなくなっているため、必需品はご家族からの預り金により揃えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族の希望により携帯電話所持の方も数名おり、ホーム内の電話取次は自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ほとんどの利用者が過ごすホールは、みんなの顔が見られるように集合テーブルにし、職員と共に過ごせる空間づくりに配慮している。また、毎月大型の貼り絵を仕上げて季節がわかるようにしている。	共用の空間は、適度な広さと明るさがあり、配慮された生活環境となっている。集合テーブルは、適度な距離感で談笑できるように配置され、食事や制作など職員と共に過ごす居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	集合テーブル以外にソファを2か所に配置しており、気の合う利用者同士が座って語り合う姿が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれの個室はご家族と本人の好みにより馴染んだ家具を持ち込み、個々に趣があり、清潔で居心地の良い空間とするよう清掃を支援している。	居室は、馴染みの家具や鏡台を使い、仏壇や神棚を持ち込み、写真や制作作品を飾るなど、それぞれに心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室からトイレやホールなどに、手すり使用で歩行ができる様になっている。トイレも十分な空間がある。		